

# 宿根アリッサムにおける補光栽培管理技術マニュアル

令和4年3月

さいたまの花普及促進協議会

# はじめに

宿根アリッサム(学名 *Lobularia maritima*)は地中海沿岸が原産のアブラナ科ニワナズナ属の多年生草本である。原産地の地中海沿岸部では10か月の長期間にわたって連続的に開花をする。(※1)同じ、ロブラリア属の一年草のアリッサム(スイートアッサム)は日本では10月から5月まで連続的に開花が期待できるが、多年草の宿根アリッサムは日本では10月に開花するものの、12月～1月には開花が止まり、発蕾した小花が開花せずに終わる。

宿根アリッサムは斑入りの葉をもつなど、園芸的に価値が高く、高単価で販売されているが、12月から2月にかけて、開花不足のために品質が低下し、出荷が困難になることが問題となっていた。

文献※1によれば、宿根アリッサムの開花のピークは春(4月～6月)と秋(9月～11月)の2回あるが、年間を通して開花はみられることが分かった。特に、8月にも開花が記録されており、日本での栽培特性とも一致した。開花は温度に依存していた。文献1の調査が行われた宿根アリッサムの自生地は、バルセロナのコルセラ公園内にある、地中海沿岸に面した東斜面であることから、開花には地中海性気候特有の穏やかな温度帯と、年間を通して、光線量が確保できる条件が必要ではないかと考えられた。

そこで、LEDで補光を行うことで、開花が継続し、秋から春の出荷が切れ目なく行えるかを実証した。

# 1 宿根アリッサムの補光による12月～2月出荷

## 技術の概要

9月下旬挿し木の宿根アリッサムを、11月中旬から加温設定10℃で自然光+114 $\mu\text{mol}/\text{m}^2\text{s}$ 程度の補光を午前7時～10時、午後3時～6時に実施すると、12月～2月の出荷が可能になる。

## (1)実証の内容

供試品種 宿根アリッサム 斑入り

挿し木 9月24日

鉢上げ 10月15日

摘心 11月上旬

出荷 12月15日～1月10日

夜温 10℃

補光 11月25日から 午前7時～10時 午後3時～6時 の時間帯をLED\*で補光

\*Philips GreenPower LED トップライティング DR/W-LB

## (2)実証の結果

実証区は12月15日から出荷が可能となり、1月10日までに3,600ポットを出荷した。

さらに、出荷後のスペースに11月25日挿し木の宿根アリッサムを7,000ポット配置し、同様の電照を行ったところ、3月1日から出荷することができた。

9月下旬挿し木の作型が2か月早く出荷できたことで、春作の生産量を増やすことができた。

## (2)実証の結果(データ)



写真1 12月28日 対照区



写真2 12月28日 電照区



写真3 1月18日 対照区



写真4 1月18日 電照区

参考文献

\*1 The flowering pattern of the perennial herb *Lobularia maritima*: an unusual case in the Mediterranean basin. *Acta Oecologica* 22(2001)209-217 F.Xavier Pico ,Javier Retana

実施機関           さいたまの花普及促進協議会

協力機関等       埼玉県大里農林振興センター  
                      深谷市花き生産組合連合会

本マニュアルは農林水産省「令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進」で実施した  
実証事業により作成しました。

発行者   さいたまの花普及促進協議会

〒330-0063   さいたま市浦和区高砂3-12-9埼玉県農林会館

TEL：048-711-7166